

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおびひろ栄 1階		
所在地	北海道帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0194600250-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然と笑顔になってもらえる雰囲気の中で生活してもらえるようなホームを目指しています。また、ご家族様にも安心してもらえるような環境を考え、ゆっくりと過ごしてもらえる空間を提供しています。入居者様、一人ひとりのことを常に職員みんなで考えられるように、外部・内部を問わずに定期的に研修を行なっています。また、皆さん一緒にの行事や個別での行事を問わずに毎月行い、楽しみのある生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームおびひろ栄」は、鉄筋コンクリート造りの2階建て2ユニットで、近隣にはスーパーや協力医療機関の病院等があり、国道沿いに面した利便性の高い場所に立地している。ホーム内は広くゆったりとしており、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられず、室内の温度や湿度にも十分配慮し、適切な環境で過ごせるように配慮している。また、廊下やリビングは季節に合わせた飾り付けや行事・日常生活の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。日常的な散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援しており、動物園や町内会行事の盆踊り、スイーツツアー等の外食する機会を作り、家族や地域の協力を得ながら利用者の楽しみ、気分転換に繋がるよう積極的に取り組んでいる。また、誕生日には事前に本人から希望や意向を聞き、職員がマンツーマンで外食や以前住んでいた場所までドライブしたり利用者の希望を叶えられるよう家族の協力を得ながら取り組んでいる。事業所理念の「笑顔で楽しい生活ができるように支援します 一人ひとりの尊厳を大切にします ご家族にも安心していただける癒しの場を提供します 地域に溶け込んだホーム作りを目指します」を職員間で共有し、実践につなげるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や休憩室など職員が常に確認できるようにしている。理念を実践できるように毎月の目標を定めて、毎日の申し送り時に読み上げ確認をしている。	法人の理念や事業所独自の理念を事務所や各ユニットの玄関先の見易い所に掲示し、申し送りやミーティング時に振り返る機会を作っている。また、事業所の月間目標を立てて申し送りで唱和し職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事である盆踊りや野遊会などには可能な限り入居者様と参加している。散歩へ出かけた時は近隣の方々に挨拶を行い、近くの池の鯉を眺めながら交流を深めるなど日常的に行えるように努めている。	町内会に加入し、町内会の盆踊りや野遊会等の行事や総会に参加し、利用者が地域住民と交流している。また、事業所の焼き肉会や敬老会、クリスマス会等の行事への参加協力で地域の方々と交流する機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族や町内会の方々のご意見や相談を受けている。また、いつでも相談にのれるように、民生委員の方に働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1度開催している運営推進会議の中で、入居者様の状況や行事、日常的な出来事、職員の事など幅広く報告している。生活に密着した内容を意識して「生活」や「病気」のことなどの話題を取り上げて話をさせて頂いている。	運営推進会議は年6回開催し、事業所の活動状況や行事への取り組みについて、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長等をメンバーとして具体的に意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治体からの情報は主にメール等で送られ都度確認を行っている。また、介護保険制度や生活保護等のことは直接出向くことで関係を構築できるように努めている。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、事業所内の実情を理解してもらい、訪問して気軽に意見交換できるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う事がないように日常生活の時間帯では施錠はしていない。また、自室内でもベッド柵で行動抑制をしないなど実践している。入職時などで勉強会を行っている。	管理者及び職員は、外部や内部研修を通じて「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束の内容とその弊害、不適切なケアについての理解に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について、毎月の全体会議の中でも勉強会を設けて知識向上に努めている。また、職員同士が話し合える環境と機会を作っている。新人職員に対しては入社時に勉強会を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で成年後見人制度を活用している方には管理者や計画作成担当者が後見人への対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約事項を読みあわせて、疑問や要望などの確認や、初期段階で細かな確認を行うことで信頼関係を築けるように努めている。契約後も不安や疑問がある時には対応を常時で行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日常の様子を伝えて、ご家族やご本人の意向をもとに支援の改善を行っている。ご家族へはアンケート調査を行い、結果をもとに見直しや改善を行っている。	家族の来訪時に意見や苦情、要望を聞き取り、家族から意見や要望があれば速やかに話し合って改善に向けて取り組んでいる。年1回、法人からご家族へアンケート調査を実施し、運営に活かすよう取り組んでいる。また、ユニット毎意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が提案や意見を話しやすい関係や環境を心がけて、適時で個別に話ができるように努めている。	毎月、ユニット合同で全体会議を開催し、職員の意見、提案を積極的に受け止め、運営に活かしている。また、日々の業務の中で日常的に管理者、職員のコミュニケーションを図り、必要時には個別で面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には担当を設けて責任ややりがいのある仕事ができるようにしている。毎月の全体会議や毎日の申し送りの機会や事務所等で不安や意見等を確認できる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験と業務内容に応じて研修への参加を勧めるとともに、内部研修の充実を図っている。職員との話し合いを持ちながら各職員の出来る事、出来ない事などを把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と定期的な勉強会や親睦会を開催し、交流を深めている。外部研修時には同業職種の方々と交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には可能な限りホーム内を見学してもらう。その後、数回の面談を重ね、要望を確認し不安が残らないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み理由を把握し、ご家族が困難と感じていることを明確にするとともにご家族の想いを話してもらえるように努めている。同時にホームの様子を伝えて相互理解が深まるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討時にはご家族、ご本人様と面談をすることも、現在関わっているケアマネージャーや医療機関からの情報を集めている。総合的に判断してホーム以外の可能性(高齢者下宿や他介護施設など)も適切と考えられる必要な情報を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は普段の関わりの中から入居者様の方々が出来る事を探し、タオル畳みや食器拭き、盛り付けなどを行ってもらう。また、一緒に思いや考えなども解り、会話を楽しみながら意欲的になれるように関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を確認しながら病院受診や面会など馴染みの関係が継続できるようにお願いしている。また、ご家族が遠方の方にはお便りや電話などで様子をお伝えしている。来訪が望めない方にはご本人とともに伺い、一緒に時間を過ごしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から、現在に至るまでの生活歴や趣味・嗜好をきかせてもらい、日常会話に取り入れながら関係作りを行っている。また、ご家族だけではなく友人・知人の方々に面会や電話を取り次ぎ、関係が途絶えないように努めている。	利用者の生活歴を踏まえ、家族以外でも友人の来訪や電話の取り次ぎ等でこれまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入することで会話が困難な方々でも関わり合いが出来るように心掛けている。入居者の方々の関係性を考慮して食堂や居間での座る場所を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態に合わせて入院・他施設へ退去されるが、退去後もご家族やご本人に確認の上で面会を行い安心が続くように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に一日の過ごし方や日常での日課や趣味などを伺い、ホームでの過ごし方の希望や要望などがあれば検討し対応している。	家族から生活歴や習慣を聞き取り、一人ひとりの生活する上での意向を把握し、日常の会話や表情の中からも本人の思いを傾聴し、利用者の思いを汲み取ることができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などのお話をよく聞き、その方に合った生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事を把握し、ご本人の意思を尊重する。その人らしい生活が送れるように取り組んでいる。個人記録などを活用しながら職員間で情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでは個別で入居者様のことを話し合い、全職員が統一したケアができるように改善を図っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いを反映させるよう取り組んでいる。また、毎月の全体会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや日誌などを活用し、危険な行為や受診結果・内服薬の変更などを記載している。職員間では情報を共有し会議などで見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との通院や外出で不安がある場合には職員が同行している。また、希望に添えるようにご家族などからの要望は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や介護タクシーなどの関わりや自治体より情報を取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度で訪問看護師に健康状態を看てもらい助言を得ている。また、協力医療機関とは定期受診や急変時に連携を図り対応している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医になっている。協力医療機関とは定期受診や急変時に連携を図り、適切な医療に繋げている。定期的に訪問看護の看護師が健康状態を確認して相談や助言で健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりから身体の変化や異常などを訪問看護師に連絡し適切な助言を受けている。定期的・継続的な医療連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には日常のご様子を伝え定期的に病院へ伺っている。担当の看護師や医師とも情報交換を行い早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に際して急変時の受診先などを確認し、体調の変化があった場合には適宜で伝えている。状態が悪化した場合には、ご家族や職員、医師などと今後の生活について話し合い、入居者様が安心して暮らせる場所を考え提案している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居前に看取りの指針を説明し、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを家族に十分説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれ職員は機会を設けて救急救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、暖房器具、アルファ米や缶詰、水などの保存食を常備している。	消防署の協力を得ながら、年2回日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、地域住民の参加協力も呼びかけており、火災や地震等の不測の事態に備えた連携・協力体制が築けるよう努めている。	継続的に地域の協力を得られるよう呼びかけているが、参加協力は得られていない。今後も継続して町内会の行事や総会を通じて火災や地震等の不測の事態に備えた連携・協力体制が築けるよう取り組んでいるのでその実践に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる事柄やトイレなどの声掛けは他者に聞こえないように耳元で話をしたり、居室で話すようにしている。個人情報やシュレッダーを使用し破棄している。	記録などの個人情報の扱いは十分に注意して取り扱っている。また、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねない言葉かけや接遇を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の好みや意向に合わせて、衣類の選択や食事の好みなどを聞いている。また、アクティビティや入・起床時間も選択できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々体調や気持ちなどに合わせて入居者様の想いに添えるようま毎日をご過ごしてもらう。職員都合を押し付けずに各自の意思を確認するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴、外出の際には衣類や帽子などを選んでもらいご本人の意見を確認している。整容もいつも同じでなく、その都度で意見を聞き意向に添えるように心掛けている。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容は基本的には同一のメニューを提供しているが、好き嫌いや禁止食を把握して代替の物を提供している。形態も必要に応じて摂取しやすい形状で提供している。出来る事の把握をし、食器拭きや盛り付けなど行なってもらっている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した食事を提供しており、体調や状態に配慮した形態で摂取しやすいように工夫している。また、食器拭きや下準備、後片付け等を役割として職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立をもとに必要な摂取量を摂ってもらえるように、個人別に刻みやミキサー、トロミなどでそれぞれに必要な食事形態や量を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後で口腔ケアを行い、清潔保持ができるようにしている。また、歯科医の訪問診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個々の排泄パターンを記録している。ADLや理解力に応じてトイレにつながるサインや行動を探り誘導を行っている。全職員はトイレでの排泄を念頭に置き、オムツ類を使用されている方々もトイレにて気持ちよく排泄ができるように働きかけている。	一人ひとりの力や習慣を活かして、水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に応じて毎日の牛乳や一日置ききのヨーグルト、食事には繊維質の食品を心掛けている。また、甘味料にはオリゴ糖も使用している。運動には散歩や体操、アクティビティを行っている。排便が困難な方には医師と相談をしながら下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自が週2回で入浴が出来るように曜日を定めて勧めている。ご本人に希望がある場合には添えるように調整している。	本人のその日の希望や体調に考慮しながら、週2回を目安に入浴できるよう支援している。浴槽は介助しやすいよう中央に設置し、1階にはバSRフトが備え付けられ、安全に配慮した環境になっている。また、同性介助を意識して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態や状況によって休息を勧め、寝たきりにならないように声掛けやアクティビティを行っている。昼夜のリズムが保てるように室温や音、灯りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用などを申し送る。受診記録を用いて報告や確認を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の希望に添って数人での外出や町内会盆踊りや焼き肉会などへ出掛けている。好みや得意なことを把握して散歩や家事、塗り絵やゲームなどを行ってもらいメリハリのある毎日を送ってもらえるように勧めている。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に添って数人で外出をしたり、町内会の盆踊りなどの行事へのを行っている。地域の方々の力を借りながら参加できるように努めている。	日常的な散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援している。また、動物園や町内会行事の盆踊り、スイーツツアーの夕食等を行い、家族や地域の協力を得ながら利用者の楽しみ、気分転換に繋がるよう積極的に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を個人で所持されている方はいない。希望があればご本人やご家族と相談して支援を行う。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らで電話を掛けられない方が多い為、取次ぎや代りに掛けることを行っている。手紙は出来る方には出来る範囲ご自身で書いてもらうように支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には行事の写真を貼ったり季節的な物を飾り、皆さんに居心地の良く快適に過ごしてもらえるようにしている。また、清潔保持を心がけている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。室内の温度や湿度にも十分配慮し、適切な環境で過ごせるように取り組んでいる。また、廊下やリビングは季節に合わせた飾り付けや行事・日常生活の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身で気の合う方の側へ行かれる姿がみられる。食堂と居間が分かれていることで様々な場所で一人で過ごしてもらうことが出来ている。職員はそつと見守りを行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの衣類などを持ち込んでもらい、少しでも馴染みのある環境で生活してもらえように働きかけ、それぞれが居心地の良い環境作りに努めている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、床暖房になっている。それぞれ使い慣れた家具や家族の写真、利用者の作品などが飾られ、本人らしく安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台にペーパータオルを置き自由に使用できるように表示や高さの調整を行っている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおびひろ栄 2階		
所在地	北海道帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然と笑顔になってもらえる雰囲気の中で生活してもらえるようなホームを目指しています。また、ご家族様にも安心してもらえるような環境を考え、ゆっくりと過ごしてもらえる空間を提供しています。入居者様、一人ひとりのことを常に職員みんなで考えられるように、外部・内部を問わずに定期的に研修を行なっています。また、皆さん一緒での行事や個別での行事を問わずに毎月行い、楽しみのある生活が送れるように支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0194600250-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や休憩室など職員が常に確認できるようにしている。理念を実践できるように毎月の目標を定めて、毎日の申し送り時に読み上げ確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事である盆踊りや野遊会などには可能な限り入居者様と参加している。散歩へ出かけた時は近隣の方々に挨拶を行い、近くの池の鯉を眺めながら交流を深めるなど日常的に行えるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族や町内会の方々のご意見や相談を受けている。また、いつでも相談にのれるように、民生委員の方に働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2カ月に1度開催している運営推進会議の中で、入居者様の状況や行事、日常的な出来事、職員の事など幅広く報告している。健康で長生きをテーマに「運動」や「病気」のことなどの話題を取り上げて話をさせて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治体からの情報は主にメール等で送られ都度確認を行っている。また、介護保険制度や生活保護等のことは直接出向くことで関係を構築できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が「身体拘束をしない」考えで対応しています。ベッドから落下の危険性のある入居者様へは個別で確認の頻度を増やすとともに床に布団を敷く等の対応を行なっています。入社時や適宜で勉強会を設けて意識を高く持つ様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について、毎月の全体会議の中でも勉強会を設けて知識向上に努めている。また、職員同士が話し合える環境と機会を作っている。新人職員に対しては入社時に勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で成年後見人制度を活用している方には管理者や計画作成担当者が後見人への対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約事項を読みあわせて、疑問や要望などの確認や、初期段階で細かな確認を行うことで信頼関係を築けるように努めている。契約後も不安や疑問がある時には対応を常時で行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日常の様子を伝えて、ご家族やご本人の意向をもとに支援の改善を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が提案や意見を話しやすい関係や環境を心がけて、適時で個別に話ができるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には担当を設けて責任ややりがいのある仕事ができるようにしている。毎月の全体会議や毎日の申し送りの機会や事務所等で不安や意見等を確認できる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験と業務内容に応じて研修への参加を勧めるとともに、内部研修の充実を図っている。職員との話し合いを持ちながら各職員の出来る事、出来ない事などを把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と定期的な勉強会や親睦会を開催し、交流を深めている。外部研修時には同業職種の方々と交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には可能な限りホーム内を見学してもらう。その後、数回の面談を重ね、要望を確認し不安が残らないように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み理由を把握し、ご家族が困難と感じていることを明確にするとともにご家族の想いを話してもらえるように努めている。同時にホームの様子を伝えて相互理解が深まるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討時にはご家族、ご本人様と面談をすることも、現在関わっているケアマネージャーや医療機関からの情報を集めている。総合的に判断してホーム以外の可能性(高齢者下宿や他介護施設など)も適切と考えられる必要な情報を伝えている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の高い方には職員と一緒にアクティビティに参加を行い、出来る事が多い方には、おやつ作りや食事作り、裁縫などのお手伝いを行ってらっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を確認しながら、通院や面会などの馴染みの関係が継続するようにお願いしている。また、行事などへの参加を通したり2カ月に1度でお便りを送付してホーム内の様子とともに入居者個別の枠を設けて入居者個別での様子も伝えている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から家族構成や生活歴など聞き、馴染みの方達の面会時にはゆっくりと過ごしてもらっている。また、日常会話の中にそれらを交え関係作りを大切にしています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見ながら、居間のソファや食堂での座る場所を調整している。難聴の方もいるので常に職員は入居者様の間で過ごすようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態に合わせて入院・他施設へ退去されるが、退去後もご家族やご本人に確認の上で面会を行い安心が続くように配慮している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの生活歴と日々の関わりから新たな情報を得て職員間で共有し入居者様の想いや意向を把握するように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や病歴、入居に至るまでの経緯を確認している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族などからの情報をもとにホームでの生活の様子を個別に記録して、その人らしい生活が過ごせるように取り組んでいる。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の出来る事・出来ない事、わかる事・わからない事、不安や願いなどのアセスメントを行なうとともに、ご本人やご家族の意向を確認してケアを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティング時に全体のカンファレンスを行っている。個人記録を確認しながらケアプランを見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食べる事が好きな方へは外食や買物、外出などのその時々に応じて対応をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービス、介護タクシー、ボランティアなどの情報をもとに取り組んでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医を大切にしている。ただ、ご本人やご家族の要望で協力医療機関に変更する場合もある。職員同士は同行し細目に日常の様子や特変等を伝えて医療連携を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月1回の訪問看護の際には入居者様の様子を細かく伝え看護師、医師などと連携をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の病歴や入院に至るまでの経過や日常生活動作を伝えて、入院後も適宜で面会して状態の把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に急変時の受診先を確認しておき、体調の変化をご家族に伝えている。状態が悪化した時などはご家族・医師・職員を交えて今後のことで話し合いを持っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習はそれぞれで受けている。事故などの緊急な場合の連絡方法は適時で指導をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、暖房器具、アルファ米や缶詰、水などの保存食を常備している。			

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇などの研修を実施、日常でも職員間で話合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択やアクティビティの参加、散歩などで、ご本人の意向を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝時間などメリハリのある生活を送ってもらえるように取り組んでいる。また、ご本人の体調や意向に添って考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容など気持ちよく過ごしてもらえる支援を行っている。		

ふれあいの里 グループホーム おびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けや調理のお手伝いなど、出来る範囲で行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日摂取した飲水量を24時間通して記録している。不足している場合には声掛けや内容の変更など対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの見守りを行い、毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを記録し、ADLや理解力に応じて誘導や介助を行えるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排泄パターンを記録し、ヨーグルトやオリゴ糖、野菜などを勧めている。また、医師との相談の上で下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれが週2回の入浴ができるように取り組んでいる。拒否がみられる場合などは曜日の変更など臨機応変に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や日中の表情・傾眠状態を把握して対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診内容や処方薬情報はどの職員でも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望を確認し、楽しんで過ごしてもらえるよう、裁縫や塗り絵などを勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの行事として地域の盆踊りや菊祭りなどに参加してもらっている。また、個別でも時々に合わせて対応している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が現金を持参されることはない。必要な物は職員が代替えし購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、又は電話をかけて欲しいと希望があると時に対応を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを行い、季節感を感じてもらっている。トイレなど共有部についてはわかりやすいように表示している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が離れていることで、他者に干渉されにくいようになっている。職員は見守りを行い自由に過ごしてもらっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参してもらい、ご本人が管理しやすいようにシールなどを貼っている。(どこに何があるかわかりやすいようにしている。)			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは表示をしてわかりやすいようにしている。また、ペーパータオルやティッシュペーパーなどは使いやすい場所に置いている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおびひろ栄

作成日：平成 28年 3月 28日

市町村受理日：平成 28年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	継続的に地域の協力を得られるように呼びかけているが、参加協力は得られていない。今後も継続して町内会の行事や総会を通じて火災や地震等の不測の事態に備えた連携・協力体制が築けるように取り組みが必要である。	災害時などの有事の際に円滑に人命を守ることができる体制構築を行う。	地域の方々に協力が得られるように、防災訓練に参加を依頼するとともに、積極的に町内会行事に参加させて頂き事業所を認知してもらえるように働きかけていきます。	平成28年 4月～ 平成29年 3月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。